

令和6年度・7年度  
鹿児島県租税教育研究委嘱校

# 租税教育の実際



令和7年11月

日置市立伊集院中学校



伊中ブログ



伊中HP

# 目 次

## I はじめに

- 1 日置市の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 2 伊集院中学校の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

## II 研究の概要

- 1 事前アンケート結果・考察・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2、3
- 2 研究主題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- 3 研究主題設定の理由・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- 4 研究の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- 5 研究組織・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- 6 租税教育の全体計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
- 7 租税教育の年間計画(2年間分)・・・・・・・・・・ 5

## III 研究の実際

- 1 税に関する作品・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6～9
- 2 税に関する書籍コーナー・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
- 3 租税教室の開催・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
- 4 財政教室の開催・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11、12

## IV 研究のまとめ

- 1 事後アンケート結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13
- 2 事前・事後のアンケート結果の比較・・・・・・・・・・ 14
- 3 研究成果・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
- 4 次年度以降の課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15

## V おわりに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15

# I はじめに

## 1 日置市の概要

県の西部、薩摩半島のほぼ中央に位置し、東は県都鹿児島市に、北はいちき串木野市と薩摩川内市に、南は南さつま市に隣接し、また、西は日本三大砂丘の一つ、白砂青松の吹上浜と東シナ海に面しています。日置市は、妙円寺詣りや流鏝馬、せつぺとべに代表される歴史的な伝統行事に、薩摩焼や優れた泉質を誇る温泉など、古の情緒と安らぎに満ちた貴重な資源を数多く有しています。これらの資源を活用しながら「住んでよし、訪ねてよし、ふれあいあふれるまちひおき」をめざします。



これら

(日置市ホームページから)

## 2 伊集院中学校の概要

本校は、15学級（特別支援学級3学級を含む）で全校生徒約460名、2つの小学校区からなり、来年度は創立80周年を迎える日置市で最大の規模の学校である。緑豊かな環境の中で、生徒一人ひとりの個性を大切にしながら、安心して学び合える学校づくりをめざし、「気づき、考え、自ら行動する伊中生に」というスローガンのもと、地域と連携した教育活動にも力を入れている。



－石橋発掘作業後の集合写真－

校訓の「美しき魂（うるわしきたましい）」は幕末の志士有馬新七先生の「時体考」の一説に由来している。また、校区内では毎年、鹿児島三大行事である「妙円寺詣り」が行われ、生徒・職員とも大勢が参加する。今年、敷地内の正門の入口にある校訓の碑の下から、戦国時代のものとみられる、本土最古級の石橋に使われていた一枚岩が出土した。この発掘作業にも多くの生徒が参加するなど歴史にゆかりのある学校でもある。

## II 研究の概要

### I 事前アンケート結果・考察

本校が租税教育推進校の指定を受けたので、実態把握のために「税」についての事前アンケートを行い、研究主題を考える参考にした。

(実施：令和6年5月 実施学年2・3年生 252名)

(アンケートの結果)

#### (1) あなたは税に興味・関心がありますか。

	ある	少しある	あまりない	ない
2年生	11名	22名	69名	37名
3年生	15名	17名	48名	33名
合計	26名	39名	117名	70名

#### (2) あなたは税を納めることについてどう思いますか。

	納めるべき	納めたほうが良い	納めなくても良い	納める必要はない
2年生	11名	50名	69名	9名
3年生	18名	65名	20名	10名
合計	29名	115名	89名	19名

#### (3) 税金についてのイメージを自由に書きなさい。

- ・高い ・めんどくさい ・義務 ・人々を助ける ・お金をとられる
- ・必要不可欠なもの ・日本をよりよくするために必要不可欠
- ・あんまり目に見えずイメージしにくい ・できればなくなってほしい
- ・払わないといけない ・買い物をしたときについてくるやつ
- ・いまいちよくわからない ・給料からたくさんとられるもの
- ・増税って言葉をよく聞く ・世の中を回すためのもの
- ・メリットもあるしデメリットもある ・色々種類があってよく分からない
- ・よくないイメージ ・払うのに大変なイメージ ・物の値段を高くしている
- ・しくみが難しい ・国をかたち作るもの
- ・みんなのためって分かるけど、人々の生活が少し苦しくなっている

#### (4) 税金がどう使われているか、知っていることを書きなさい。

- ・教科書 ・分からない ・公園 ・みんなの机や椅子 ・道路 ・消防車
- ・救急車 ・貿易 ・公務員の給料 ・アベノマスク ・防衛費 ・年金
- ・高齢者のため ・外国のため ・政治家の給料 ・給付金
- ・災害が起こったときの支援 ・東京オリンピック

## (考察)

(1)のアンケート結果から、興味・関心が「あまりない」「ない」が187名(74.2%)にも上る。多くの生徒が『税』そのものへの興味・関心が低いことがわかる。ただし、(2)のアンケート結果から、税金を納めることについては、特に3年生は「納めるべき」「納めたほうが良い」と答えた生徒が計83名(73.4%)もいる。生徒に直接聞いてみると「なんとなく払わなきゃいけない気がします。」と話していた。

また、(3)・(4)のアンケート結果から税金の使われ方について、「教科書」、「みんなの机や椅子」や「公園」などの回答が多かった。ただし、身近なところで使われているにもかかわらず、『税』へのイメージを聞くと、ポジティブなイメージよりもネガティブなイメージが多かった。また、(3)・(4)ともに「わからない」という回答も非常に多かった。

以上の結果から、本校の生徒の『税』についての興味・関心が低いことや理解が十分ではないことが分かった。

## 2 研究主題

租税教育を通して、「税」を正しく知り、将来の納税者として『税』に対する興味・関心を高め、理解を深めさせる。

## 3 研究主題設定の理由

この研究主題を設定した理由は、日置市、鹿児島県、日本のこれからの発展や抱える課題等に将来向き合うことになる現在の中学生に、租税教育を通して『税』に対する興味・関心を高めることがとても大切なことであると考えたからである。

アンケート結果からも分かるとおり、子どもたちは『税』についての知識や理解が不足している。『税』を正しく知ることや私たちの生活に『税』が必要不可欠なものであることを租税教育を通して実感させることで、将来の納税者として積極的に社会に参加する姿勢を育成できると考える。

## 4 研究の目標

- (1) 税に関する作品制作や租税教室などで、『税』に関する興味・関心を高める。
- (2) 各教科の授業等で『税』に関する正しい知識を身に付ける。
- (3) 財政教室等で、『税』についての理解を深め、将来の納税者としての態度を育成する。

## 5 研究組織



## 6 租税教育の全体計画



## 7 租税教育の年間計画（2年間分）

### (1) 令和6年度（1年目）

5月	○ 租税教育研究委嘱状交付 ○ 事前アンケート実施
6月	○ 研究主題設定 ○ 年間計画検討
7月	○ 国語科の税に関する書道・標語制作
8月	○ 社会科の教科部会で取組検討
9月	○ 税に関する作品提出
10月	○ 作品を校内の掲示版へ掲示
11月	○ 県租税教育推進協議会出席 ○ 社会科の税に関する授業
12月	○ 租税教室（3年） ○ 社会科の税に関する授業
1月	○ 税に関する書籍の購入
2月	○ 図書室に税に関するコーナー設置
3月	○ 1年間のまとめ ○ 次年度の計画案策定

### (2) 令和7年度（2年目）

4月	○ 年間計画確認
6月	○ 財政教室打合せ
7月	○ 財政教室（3年） ○ 国語科の税に関する書道・標語制作 ○ 事後アンケート実施
8月	○ 研究冊子まとめ ○ 社会科の教科部会で取組検討
9月	○ 税に関する作品提出
10月	○ 研究冊子完成
11月	○ 文化祭での作品展示 ○ 県租税教育推進協議会発表 ○ 社会科の税に関する授業
12月	○ 社会科の税に関する授業
2月	○ 図書室に税に関するコーナー設置
3月	○ 2年間の反省とまとめ

### Ⅲ 研究の実際

#### Ⅰ 税に関する作品

##### (1) 税に関する作文の取組

社会科の取組で夏休みの課題として取り組んだ。教材「わたしたちの生活と税」や財政教室で学んだ内容を生かして、生徒は一生懸命に取り組んでいた。

##### (2) 生徒の作文例

題名 私たちの未来のために 3年 T・H

私たちの暮らしは税金で成り立っている。税金が無いと学校へ通えなくなる。道路を安全に通行できなくなる。いざというときに緊急車両に来てもらえなくなる。など困ることがたくさんある。

私は税金に対してこれくらいのイメージしかもっていなかった。しかし、財政教室を受けたことで、国に借金があることを知った。税金などの収入があまり増加していないのに対して、少子高齢化などによる社会保障関係費が大きく増加したためだ。国の予算の使い道のうち、約3分の1が社会保障に使われている。借金残高だけが増加し続けると、公共サービスの縮小や増税により将来世代に大きな負担がかかる可能性がある。そもそも税金はいつから集められ、社会のために使われるようになったのだろうか。

もともとは、農民が武士たちのためにお米などで年貢を納めていた。しかし、社会全体で民主主義の考え方が広まってきたことにより、日本も明治時代のころから税金で学校や警察などがつくられるようになったそうだ。

世界の中でも、日本はみんなから集める税金よりもみんなのために使うお金のほうが多くなっており、それが深刻な問題になっている。一方、アメリカは税金が少なく、社会保障などの給付も少ない。フランスは税金が多く、社会保障などの給付も多い。少ない場合は生活面で困る。多い場合は負担が大きい。未来のためにもバランスを考えていくことが大切なのではないか。

私は財政教室の中で、財務大臣になって予算案を考えてみるという活動を行った。最初は簡単だと思っていたが、実際やってみると難しく、少子化解消のために子ども、子育て世代中心の予算にすると、今いる高齢者の方や介護をする方への負担が大きくなる。逆に高齢者や介護をする方中心の予算にしまうと、子どもや子育て世代の方の負担が大きくなり、少子化がもっと進む原因になってしまう。そして、国民の暮らしやすい社会作りをするには、歳入を増やしていかないといけないことになる。すぐには解決できない問題だけど、この問題から目を背けず、私たちの未来のために真剣に向き合っていくことが大切だと思う。

私は今まで税のことについて知ろうとしてこなかった。しかし、いま日本の財政が深刻な問題を抱えているということが分かり、他人事にはせず、しっかりと向き合って税についての情報を増やそうと思った。自分達の将来のために、未来でも安心安全な暮らしができるように、税について知ることで、私たちが日本の未来をつくっていく。

題名 僕の昼ご飯 3年 T・T

僕は学校給食が大切だ。日替わりの献立をその日の楽しみにしていて、毎回必ずおかわりをするほどである。そんな僕には、給食について疑問に思っていることがある。それは給食の安さだ。僕の学校では月に3750円を払っている。一見高そうに見えるがひと月で二十食以上の食事がこの値段なのだ。安全で栄養に配慮されていることも考えるとあまりにも格安だ。一体どうやって運営しているのだろう。

実は、私たちが払っている給食費は材料費だけで、その他に必要な、給食を作る人の人件費、給食センターの設備費、光熱費等のお金は全て自治体が負担しているのだ。また近年では、子育て支援の観点から給食を無償化する自治体も増えてきているらしい。

そして、その財源は主に一般財源や地方創世臨時交付金などからきている。これらは要するに税金である。つまり、学校給食は私たちが支払う給食費に加えて多くの税金によって賄われているということになる。

では、僕の住む日置市の財源はどうなっているのだろうか。実は、日置市が市自身で賄っているのは全体の僅か3分の1ほどで、残りの6割以上は国や県などに依存しているのである。

このことから、地方の財政には国が大きく影響していることが分かる。これだけ地方にお金を出せるということは、一見するとそれだけ国の財政には余裕があるように見える。

しかし、実際の国の財政はかなり苦しい状況にある。国が税で賄える収入はおよそ7割しかなく、実は残りの大部分は国債と呼ばれる国の借金が支えている。さらに借金残高は1000兆円を越えていて、かなり財政を圧迫している。この背景には、税金の収入などがあまり増加していないのに対して社会保障費が大きく増加したことが考えられており、少子高齢化の影響も示唆されている。

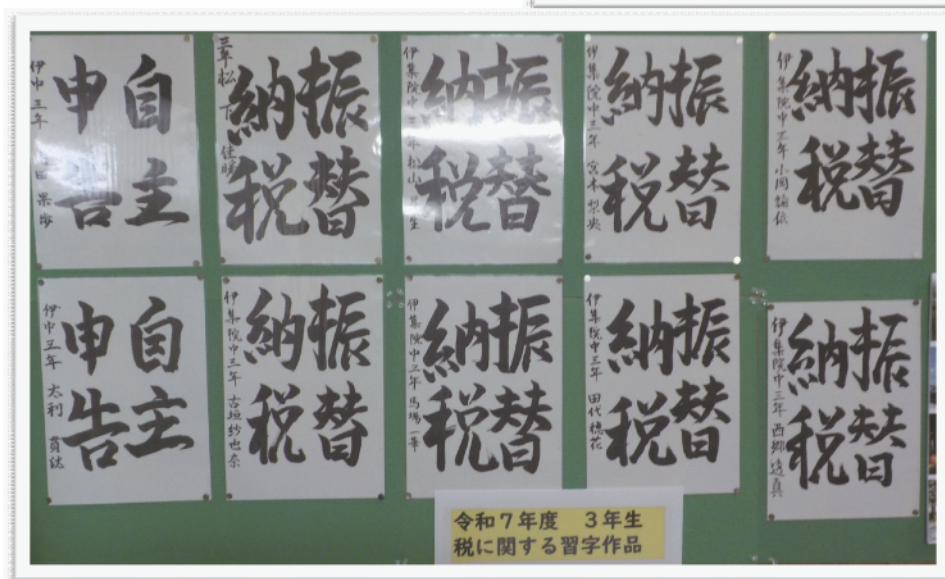
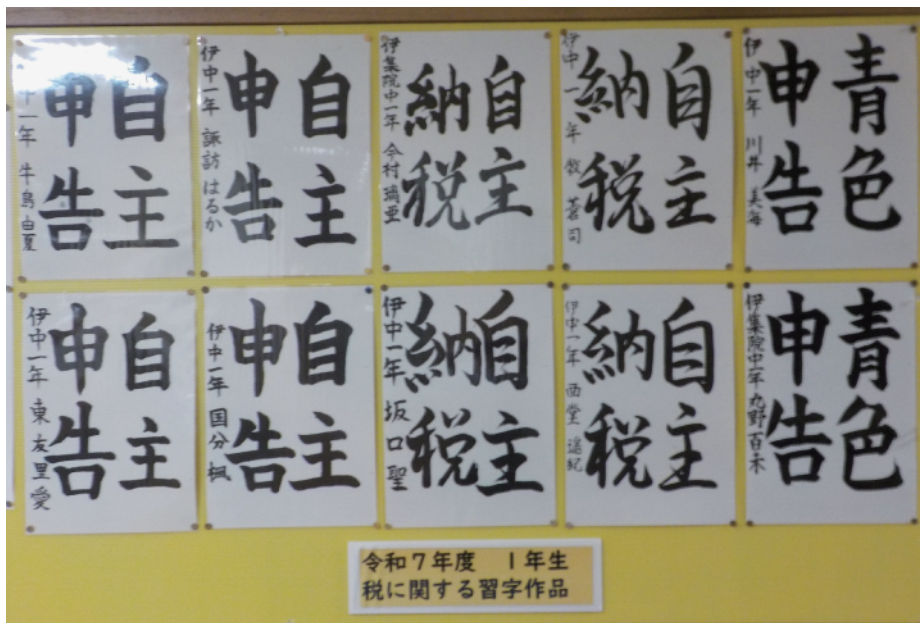
国の借金が膨らむと、様々な問題が生じる。まず、借金をすることは負担の先送りになり、将来世代に苦しい思いをさせてしまう。また財政にゆとりが無くなって無くなってしまっているので、災害などで莫大なお金が必要になったときに対応できなくなる。このままの状況が続けば、いずれは財政破綻にも繋がりがねない。

給食という身近なものが、少なからず国の財政にも関わっているなんて僕は思いもしなかった。安くて、安全で、おいしい給食は、税金によって支えられていたのだ。それを知ると、税金への感謝の気持ちが浮かんでくれる。しかし、その税金で収入を支えることも難しくなっている。そう思うと、これから給食を食べるときにも少し違った見方ができそうだ。

僕は給食が大好きだったからこそ、未来の子供たちにも、おいしい給食を食べ続けてほしい。そのためにも、それを支える税金の在り方を、ひいては財政の在り方を、改めて考えなくてはならないのではないのだろうか。

(3) 税に関する習字作品

国語科の取組として行った。真剣に書いている生徒が多く、たくさんの習字を出品できた。また、習字作品は校内の掲示板に展示した。



(4) 税に関する標語

全学級で取り組んだ。ユーモア溢れる作品も多く、たくさんの標語を出品できた。優良作品は、校内の掲示板に展示した。

令和6年度伊集院中学校 税に関する標語作品															
標語	学年	標語	学年	標語	学年	標語	学年	標語	学年	標語	学年	標語	学年	標語	学年
私たち 納税したいで 変わる未来	三年氏名 園田 遙心	一人でも 少しの税でも 役に立つ	三年氏名 阿多 宗敬	税金で 明るい未来に 花開く	三年氏名 川田 小晴	税金で 支える未来の 少子化対策	三年氏名 吉岡 詩望	納税は 社会をつくる 第一歩	三年氏名 柿内 凜音	税金は 巡り巡って 自分のため	三年氏名 菊永 李桜	その税で 未来と平和 作ろうよ	三年氏名 坂本 健	納税で 潤う社会 希望の輪	三年氏名 竹之内 美緒
		公共の 使い間違えば 税は水の泡	三年氏名 小屋敷 澁斗												
		かくすなよ しつかり出そう 所得税	三年氏名 窪田 智哉												

素晴らしい作品をありがとう！

－ 校内に掲示した税に関する標語作品 －

2 税に関する書籍コーナー

学校図書館司書の先生と連携し、『税』に対する生徒の興味・関心を高められるように関連書籍コーナーを図書室に設置した。定期的に置く本や場所を変えながら、生徒の目に触れるよう工夫した。



－ 図書の展示① －



－ 図書の展示② －

### 3 租税教室の開催

令和6年12月13日5校時に、3年生を対象に伊集院税務署の方々に来校していただき、租税教室を開催した。生徒の真剣に参加している様子があった。



— 斉授業の様子① —



— 斉授業の様子② —

#### 【租税教室の感想から】

- ・ 今、社会の授業で公民の経済に入っています。今日税があることの大切さや税があることで成り立っているものを知ることができました。授業で習うことと繋げられるように授業も頑張りたいと思います。
- ・ 生徒1人にかかる金額が100万円と聞いてとても驚いた。学校で行われる1つ1つのことに感謝をして残りの中学校生活を送っていききたい。
- ・ 今まで税のことについて考えることが全くなく、なんて税金を払わなくちゃいけないのだろうと思っていましたが、税が無くなったらどうなるのかを知り、税は私たちの生活に必要なものだと思います。将来、税をしっかりと払おうと思います。
- ・ 税は約80種類ぐらいあることを知り、とても驚きました。また、動画を見て今の生活は税のおかげだと知り、ありがたみを感じました。
- ・ 税ってなんであるんだろうと思っていた時期がありました。社会の授業では税はないと生きていけないものなんだと分かりました。しかし、まだ納得ができないところが正直ありましたが、今回のお話を聞いて税がないどのような暮らしになるか想像ができました。しっかり税を払う大人になろうと思います。
- ・ 私は税なんていらないとずっと思っていたけれど、今日の租税教室で税を払うことの大切さがとてもよくわかりました。私の思考が一気に変わるきっかけを与えてくださりありがとうございました。
- ・ 私はこれまで、消費税が上がると不満をもっていたが、こんなに身近なところで税金が使われているということを知り、自分達の生活を良くするために税金があるのだとわかった。
- ・ まだ消費税しか払っていないけど、大人になったら様々な税を払うことになります。払う立場になったら、国や地方自治体がどんなことに使っているか監視をしていくことも大切にしていきたいです。

#### 4 財政教室の開催

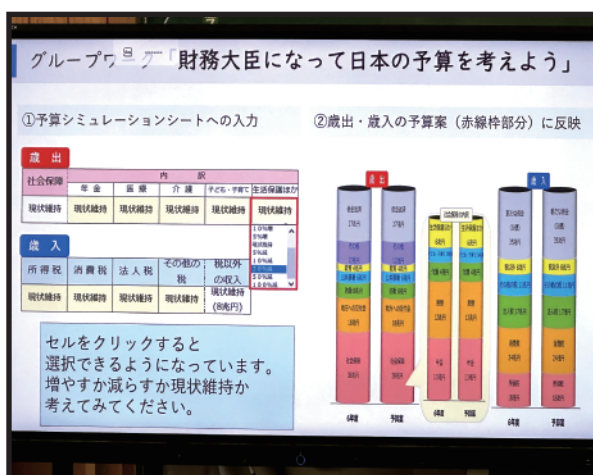
令和7年6月25日5・6校時に、3年生を対象に鹿児島財務事務所の方々に来校していただき、財政教室を開催した。5校時は体育館で一斉授業を行い、6校時は各教室で講師の先生方に1人ずつ担当していただいた。真剣に参加している生徒の様子があった。



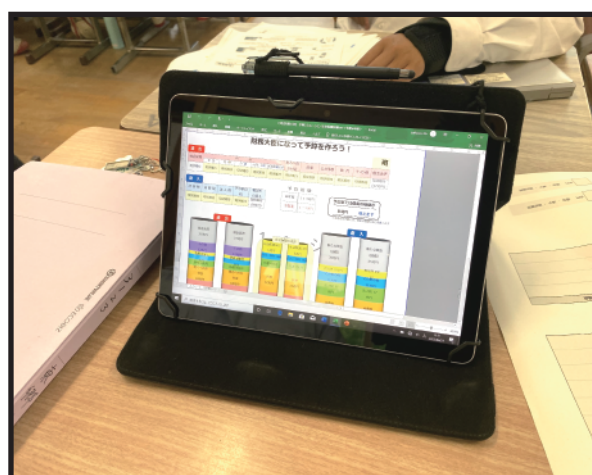
— 一斉授業① —



— 一斉授業② —



— 生徒提示資料① —



— 生徒提示資料② —



— 生徒のグループワークの様子① —



— 生徒のグループワークの様子② —

## 【財政教室の感想から】

- ・ 今日の教室で知らないと損する話がいっぱいあったから財政以外にも税のことなどいろいろ知りたい。
- ・ 少子高齢化は財政の面でも問題になっていると思った。
- ・ 税は大切だけど、最近は多く取りすぎじゃないかと思った。
- ・ 自分達の払っている税金が困っている人や老人や児童に使われていると知れて少し安心した。ただ、借金があることは不安になった。
- ・ 借金を少なくするためには、それ以外のことが止まってしまうから、税の使い方を考えるのは難しいと思った。
- ・ 税をどこにどれくらいかけるかで、日本の将来の年齢層や環境は大きく変わっていると思った。
- ・ どこかを減らすと足りなくなり、増やすと国民から不満を浴びせられたりと大変な判断が必要だと思った。
- ・ 税金の使い道を変えるだけで、日本の未来が変わることがすごいと思った。
- ・ どの分野に税をかけると生活が良くなるのかをすごく考えた。
- ・ 自分達が払っている消費税が何に使われているか分かり、減税の難しさが分かった。
- ・ 日本の借金の多さにびっくりしたのと、将来働くようになったら税をしっかりと払って、日本に貢献したいと思った。
- ・ あの借金地獄、何年後に解決するのか気になります。
- ・ 財政のバランスや将来世代のことを考えていくことが大切だと学んだ。
- ・ 税が自分が思っていたよりも、様々なことに使われていて驚いた。
- ・ 税金は悪いものだと思っていたけど、知れば知るほどそんな悪いやつじゃないと思った。
- ・ 税には悪いイメージを持っていたけど、税が無いと生活が不便になるから大切だとわかった。
- ・ 税の使い方次第で、日本の未来を大きく変えられると思った。
- ・ 税は私たちの生活に欠かせないものだとわかった。そして、借金は今後の課題だと思う。
- ・ 将来の世の中を考えたり、自分事として今後どうしたら良い世の中になるか考えられた。
- ・ 借金は無くなって欲しいけど、税金は増えて欲しくないと思うし、迷いました。
- ・ みんながよりよく生活するために税は大切だとよくわかった。

## IV 研究のまとめ

### 1 事後アンケート結果

いくつかの取組を終えて、生徒にどのような変容があったかを確認するために、『税』についての事後アンケートを行い、取組の成果の確認をしようと考えた。

(実施：令和7年7月 実施学年3年生 143名)

(アンケート結果)

(1) あなたは税に興味・関心がありますか。

	ある	少しある	あまりない	ない
3年生	32名	71名	19名	11名

(2) あなたは税を納めることについてどう思いますか。

	納めるべき	納めたほうが良い	納めなくても良い	納める必要はない
2年生	36名	79名	12名	16名

(3) 税金についてのイメージを自由に書きなさい。

- ・ 意外とたくさん身の回りに使われている。
- ・ 税金があるからこそ、今の生活が送れている。
- ・ 払うのは嫌だけど、みんなが払わないと国が大変なことになる。
- ・ 増税は悪いことだけじゃ無い。何かをするときにはしかたないときもある。
- ・ 嫌なことが多いと思っていたけど、良いことの多さにびっくりした。
- ・ 必要なもの。ちゃんと払うべき。
- ・ 義務で嫌だったけど、やっぱりみんなちゃんと払いましょう。
- ・ やっぱり増税は嫌です。
- ・ たくさんの種類が収入にも支出にもあるので、ちゃんと勉強しないといけないと思いました。
- ・ 自分の払った消費税がちょっとだけど、誰かのために役に立ってると思った。
- ・ いろいろ学んで、税って大事だと思った。

(4) 税金がどう使われているか、知っていることや新たに知ったことを書きなさい。

- ・国の借金を返す ・社会保障 ・病院で払うお金 ・年金
- ・ごみ収集 ・おじいちゃん、おばあちゃんへの介護のお金
- ・高校の授業料 ・発展途上国への支援 ・校舎のクーラー
- ・教科書 ・みんなの机や椅子 ・道路 ・消防車 ・救急車
- ・公務員の給料 ・防衛費 ・高齢者のため ・政治家の給料
- ・災害が起こったときの支援

## 2 事前・事後アンケートの比較

(1)・(2)のアンケートの結果の比較では、大きな変化が見られた。税に対する興味・関心がある・少しあるが25.8%から72.0%へと大幅な上昇が見られた。また、現在の3年生の意識に限って見ていくと、税を納めるべき・納めたほうがよいと考える生徒も43.9%から80.4%へと上昇・変容した。

(3)・(4)のアンケート結果の比較では、特に『税』に対する捉え方が変化をしていた。事前アンケートでは、ネガティブな意見が多く見られたが、税が身近なものであることや必要なものであることなど、ポジティブな意見も多く見られるようになった。

## 3 研究成果

- 租税教育の実践を通じて生徒たちの興味・関心は高めることができた。2年間の中で、生徒に対して租税教室だけでなく財政教室を行ったり、図書室の税に関するコーナーを増やしたりして、『税』に関して考える場や機会を与えることで、興味・関心をもつ生徒を増やすことができた。
- 社会科での税に関する授業だけでなく、国語科で税に関する習字や作文などへの取組を通して、生徒に『税』についての認識を高めることができた。
- 財政教室では日本の未来を考え、社会科では日置市の財政について考えるなど、『税』について繰り返し考えさせることができた。アンケートの結果からも『税』についての興味・関心が高まり、『税』の重要性を感じる生徒の割合を増やすことができた。

#### 4 次年度以降の課題

- 関係機関を活用し、もっと多くの場を設定し、活動を充実させるべきであった。
- 国語科・社会科の取組が多くなってしまったので、数学科や家庭科など、もっと教科横断的な租税教育活動を行うべきであった。
- 租税教室と財政教室を組み合わせるなど、生徒が3年間の中で系統的段階的に学ぶ場を工夫すべきであった。
- 生徒会活動と連携するなどして、生徒主体で行う方法や活動を行うことができる、更に成果に繋がると考える。

#### V おわりに

今回、「租税教育を通して、『税』を正しく知り、将来の納税者として『税』に対する興味・関心を高め、理解を深めさせる」を研究主題として設定し、2年間活動を行ってきた。通常の教育活動に加えて行うので、教育課程との兼ね合いなど十分な実践とはならなかったと考える。それでも、生徒たちは活動の中で、『税』について興味・関心をもち、自分のこととして捉え考える様子が見られるようになってきた。今後も、学校全体で生徒が『税』に関して学ぶ機会を計画的に設定していきたい。

最後に、このような場を与えてくださった鹿児島県租税教育推進協議会をはじめ、生徒たちに学びの場を与えてくださった鹿児島財務事務所、伊集院税務署など関係機関の皆様から感謝申し上げたい。